

報告骨子案に対する委員からの指摘と対応案

| 項目 | 委員からの指摘 | 対応案 |
|--------------------------------|--|--|
| 基本となる視点 | | |
| 前文 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する取組みが着実な進展を見せていることの例示として、最初に浮遊粒子状物質と二酸化窒素の環境基準を全測定局で達成したことを記述しているが、これが代表的な事例だとは思えない。(大橋委員) ・先駆的な取組みの事例として、家電リサイクル大阪方式の取組みを追加すべき。(花嶋委員) ・着実な進展を見せた取組みの記述だけでは楽観的に捉えられるので、記述を工夫すべき。(水野委員) | <ul style="list-style-type: none"> ・前文を「1. 現行計画の現状と課題」、「2. 新たな計画策定に当たって基本となる視点」に分けることとし、「1. 現行計画の現状と課題」では着実な進展を見せた取組みだけを記述するのではなく、各分野の現状と課題について記述することとする。 ・各分野の現状と課題の中で、浮遊粒子状物質等の環境基準達成や家電リサイクル大阪方式の取組みを記述することとする。 |
| (1) 持続可能な経済社会システムの構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性」等の観点を現在の経済社会システムに組み入れ」とあるが、「生物多様性」という言葉にはアクションが入っていないため、「生物多様性の保全」等の観点を現在の経済社会システムに組み入れ」とすべき。(石井委員) | <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のとおり修正する。 |
| (2) 地域発の取組みの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・「府域には環境・エネルギー産業が集積しており」とあるが、関西圏には研究機関が多くあるので、研究機関も入れるべき。(水野委員) | <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪・関西には、環境・エネルギー分野の産業や研究機関が集積しており」とする。 |
| 目標 | | |
| 表題 | <ul style="list-style-type: none"> ・記述されている内容は「目標」そのものではなく「目標のあり方」であり、表題をそのように変更すべき。(水野委員) | <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえ、「目標設定の考え方」とする。 |
| 1.長期的な目標 (2) 長期的な目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・将来像のキーワード「環境への負荷が少なく、ゆとりと潤いがある「豊かな持続可能都市・大阪」には、「施策展開のあり方」にある「参加・行動」の趣旨を入れてはどうか。(石井委員) ・例えば、「府民がつくる」という文言を入れてはどうか。(吉川委員) ・持続可能都市は「持続的発展が可能な都市」という意味とわかるよう、表現を工夫すべき。(濱田委員) | <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる主体の「参加・行動」により将来像を実現していくものであるが、将来像のキーワードは、将来像に至る方策ではなく、2050年の将来の姿を記述した方がよいと考えている。 ・ご指摘を踏まえ、以下のとおり修正する。 環境への負荷が少なく、ゆとりと潤いがある「持続可能な環境・新エネルギー都市」 |
| 2.中期的・短期的目標 (2)目標設定に当たっての方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・目標の設定に当たっては、「環境目標」と「行動目標」の2つのキーワードに分けて考えるとわかりやすくなるのではないかと。(水野委員) | <ul style="list-style-type: none"> ・「アウトカム目標」、「アウトプット目標」として整理し、「(2)目標設定に当たっての方針」の冒頭部分に、その旨の記述を加える。 |

| 項目 | 委員からの指摘 | 対応案 |
|-------------------------|--|---|
| 施策展開のあり方 | | |
| 前文 | ・施策展開の方向である「参加・行動」について、参加して一緒にやるという趣旨で、「参加・協働」とした方がよいのではないかと。(石井委員) | ・環境配慮「行動」を起こすことの重要性を強調するため、「参加・行動」はそのままとして、文中に「協働」の重要性を記述する。 |
| 1.参加・行動 | ・府民も事業者も行政も本気で取り組まなければならないという趣旨の記述をすべき。(大橋委員) ・意識改革がないと環境配慮行動には結びつかないので、まず意識改革が必要という趣旨の記述を入れるべき。(海老瀬委員) | ・「参加・行動」の冒頭部分に、目指すべき将来像の実現のためには、ライフスタイルを含む社会のあり方や一人ひとりの意識を環境に配慮したものへと変革する必要がある、そのために「参加・行動」が必要であるとの旨の記述を加える。 |
| 情報発信力の強化 環境コミュニケーションの促進 | ・「情報発信力の強化」と「環境コミュニケーションの促進」は一つにまとめるべき。(海老瀬委員) | ・「情報発信力の強化」と「環境コミュニケーションの促進」は、情報や機会の提供という観点で一つにまとめる。 |
| 環境配慮行動の動機付け | ・「大阪人気質を踏まえつつ、行動に対して何らかのインセンティブが伴う仕組みの導入を検討すべき」では、大阪人気質は損得勘定だけと取られかねないので、「みんなでやったら楽しい」等の意味も含まれる記述にすべき。(大橋委員) | ・「大阪人気質を活かした手法が効果的であり、例えば楽しみながらやりたくなるような取り組みの実施や、行動に対して何らかのインセンティブが伴う仕組みの導入を検討していくべきである。」と修正する。 |
| | ・環境教育は重要な項目であるので、1項目起こすべき。(藤原委員) | ・ご指摘を踏まえ修正する。 |
| 2. 4つの基本方向 (1)低炭素 | ・「低炭素」について、「低炭素」と「ヒートアイランド緩和」はあまり関係がないので、表題を「温暖化対応」として、その中の一つの大きな柱を「低炭素」とした方がよい。(水野委員) ・「温暖化」の方が一般の方にわかりやすい。(花嶋委員) ・「低炭素」にヒートアイランド緩和の視点が入ると説明を書き加えるべき。(大橋委員) | ・温暖化とヒートアイランドの2つの温暖化に対する施策展開のあり方を指し示す言葉としては、「温暖化(対応)」より「低炭素」の方がよいと考えている。 ・ご指摘を踏まえ、「ヒートアイランド現象を緩和する対策は低炭素化に直接・間接に寄与することを踏まえ、低炭素化とヒートアイランド現象の緩和の相乗効果が得られるよう施策を講じていく必要がある。」旨の記述を追加する。 |
| | ・国際的な動向や国の方針等により、施策が変わる可能性があるため、情報を的確に取得するとともに柔軟かつ先駆的に取り組むという記述を入れるべき。(水野委員) | ・ご指摘のとおり修正する。 |
| (2)循環 | ・生産・流通から消費・リサイクルに至る循環の流れが有機的に連携して、資源の循環的な利用が自立的に進んでいく社会を目指す、また事業者、消費者、リサイクル事業者・行政等の各主体の循環型社会への係わり方・役割を連携させて考えることが重要である、という記述を入れるべき。(花嶋委員) | ・ご指摘を踏まえ修正する。 |

| 項目 | 委員からの指摘 | 対応案 |
|----------------------|---|---|
| (3)健康・魅力 | ・負の遺産の事例の中の、アスベストをPCBやダイオキシンより前に持ってくるべき。(大橋委員) | ・法制定や法改正の時期が最近である事例から先に記述することとし、アスベスト、PCB、ダイオキシンの順番とする。 |
| | ・施策展開の方向である「健康・魅力」について、「魅力」は環境全体にかかってくるキーワードなので、「健康」だけでよい。(吉川委員) ・「魅力」は、精神的、文化的な意味も含まれており、このような言葉が入っていた方がよい。(石井委員) ・健康の維持プラス楽しさを創出する言葉を入れた方がよい。(花嶋委員) | ・「魅力」はそのまま残すこととし、「さわやかな空気や水との触れ合いが楽しめるような川」を「深呼吸したくなるような空気や水都大阪にふさわしい親しみの持てる川、歴史や文化の香り高い街並み」と修正する。 |
| (4)生物多様性 | ・生物多様性では、都市部についても触れて欲しい。(石井委員) | ・「高度に市街化した都市部での生物多様性の確保についても取り組む必要がある。」「大阪が都市部を包み込むように山と海が近接しているという特性も活かし、森林・里地里山・街・海のつながりを確保するエコロジカルネットワークの構築を目指すべきである。」との記述を追加する。 |
| 3.共通的事項 環境ビジネスの推進 | ・環境ビジネスの推進は重要で、これからは環境部局として、環境産業施策を出していくことも求められる。(諸富委員) | ・ご指摘を踏まえ、計画策定の際に検討していく。 |
| | ・中小のものづくり事業者の技術・研究開発に対する支援を行い、国際競争力の強化を図っていくべきである。(池田委員) | ・ご指摘のとおり修正する。 |
| | ・「国際協力の観点から、特にアジア地域に対し、官民連携しながら環境問題の解決に貢献していくべき」とすると、無償協力とも捉えかねないので、「国際協力の観点から」は「ビジネスの観点から」又は「アジアの中の関西、アジアとの共生との観点から」とした方がよい。(藤原委員) | ・「海外、特にアジア地域に対し、大阪・関西の事業者のビジネスチャンスを創出しながら、相手国の環境問題の解決に貢献する、WIN-WINの関係を官民連携して構築していくことも必要である。」とする。 |
| (施策展開のあり方の図) | ・図は、案1より案2の方が何をやるかがわかりやすい。(石井委員、大橋委員) | ・案2を採用する。 |
| 計画の効果的な推進 | | |
| | ・大事な章であるのに記述が少ないので、具体的な内容を加えた方がよい。(海老瀬委員) | ・「例えば、一般府民も委員として参画する部会を、環境審議会に新たに設置し、部会で集中的に点検評価を行い、その結果を本審議会で報告することも検討すべきである。」との記述を追加するとともに、進行管理の図を追加する。 |